

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671200255		
法人名	有限会社 敬友会		
事業所名	グループホーム花乃苑石井		
所在地	徳島県名西郡石井町藍畑字東覚円70番地3		
自己評価作成日	平成25年1月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑内の明るさと、清潔感を大切にしている。また、広々とした中庭で利用者に季節感を味わっていただけるようにしている。職員全員が利用者一人一人の思いや願いを理解し、寄り添ったケアを心がけている。利用者はもちろんのこと、家族の要望や、意見を聞く機会をできるだけ多く持ち、ニーズに沿ったケアを実践することにより、家族の方に安心していただけているのではないかと考えている。毎日の生活の中で利用者それぞれが役割を持つことにより、自信、意欲の向上に繋がっている。苑での生活をホーム便りや、生活状況を家族に毎月知らせるようにし、利用者の生活を身近で感じられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に田畑の広がる落ち着いた環境のなかに位置している。コテージ調の木造の建物となっており、温かみのある雰囲気がある。天気の良い日には、ウッドデッキや芝生で日光浴を楽しむこともできる。事業所には、地域の小学生にもらった気節の花々が咲いている。職員は、利用者一人ひとりが地域のなかで自分らしく過ごし、笑顔が絶えない我が家のような事業所を目指して取り組んでいる。季節の祭りやボランティアの来訪等、地域住民との交流も盛んに行っている。事業所の避難訓練では、地域の消防団や婦人防火クラブの協力を得て、実践的な訓練に取り組んでいる。食事はすべて事業所内で調理しており、地域の方にもらった季節の野菜が食卓にのぼることもある。利用者職員は、ともに買い物へ出かけて食材を選ぶなど、食事を1日の大切な活動のひとつとして捉えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、理念を読み上げるようにしている。また、苑内の目のつく場所に掲げ、常に意識し、職員全員が同じ方向に向かい、ケアに携わる様にしている。	地域密着型サービスの意義と役割を踏まえた事業所独自の理念を掲げ、全職員で共有している。利用者が住み慣れた地域のなかで自分らしく生活を送ることができるよう、日ごろから職員間で話しあって実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	花乃苑夏・秋祭りや、避難訓練の際に地域の方々の参加がある。また、地元の小学校児童、幼稚園児が来苑され、表現会等、交流出来ている。野菜の差し入れをしていたこともある。	日ごろから、利用者は周辺の散歩を行ったり、地域のお祭りへ出かけたりして、地域住民との交流を図っている。事業所として、神社の落ち葉拾いを手伝っている。地域の消防団や婦人防火クラブとともに防災活動に取り組むなどして、地域との相互関係の構築に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して下さる民生委員や役場の方々にケアの拠点として出来ることはないか、役立つことはないかと伝えている。また、実習生の受け入れも実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実際、取り組み状況等の報告を行っている。会議で出た意見をまとめたものを回覧し、必要であれば、職員間で会議を行い、サービスの向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の家族や民生委員、地域包括支援センターの職員等の参加を得ている。会議では、利用者の状況や事業所の取り組み等について報告を行っているが、具体的な課題等について検討したり、意見を出してもらったりするための十分な機会とはなっていない。	運営推進会議は、外部の人の目を通じて事業所の取り組みや具体的な改善課題について話しあったり、地域の理解と支援を得たりするための貴重な機会であることから、事業所の報告のみにとどまらず、具体的な事例や改善課題を取りあげるなどして、参加者との双方向的な会議運営を行うよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の担当者とは運営推進会議や相談がある時、認定更新時に深くかかわっている。また、問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	町担当職員に、事業所内の会議へ参加してもらって事業所の実情や取り組み等を伝えている。また、職員が町担当窓口へ出向いて、利用状況やサービスについて相談するなどし協働関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、勉強する場を作っている。また、常に「身体拘束をしないケアの実践」に心がけ、職員で考え、取り組んでいる。玄関の施錠はせず、さりげなく、会話し、一緒について行くなどして、自由な暮らしを支えている。	管理者や職員は、事業所内・外の研修会へ参加し、身体拘束をしないケアのあり方について話しあっている。全職員が身体拘束の弊害を理解し、自分に置き換えて日ごろのケアを振り返ることにより、安全を確保しつつ自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、勉強する場を作っている。事業所内で虐待が見過ごされる事のないように注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している方がいらっしゃるため、機会あるごとに職員への説明を行い、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、家族の不安や疑問点を十分理解、納得されるように時間をつくり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見を言えるような環境作りに心がけている。運営推進会議においても、利用者家族に意見を頂き、反映させている。	職員は、家族の来訪時や日ごろの利用者との関わりのなかで、意向等を出しすい対応を心がけている。出された意見や要望は、関係者間で話しあってサービスの質の向上に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、積極的に意見、提案出来るようにしている。	管理者は、ミーティングや日ごろの職員との会話のなかで、意見を表しやすい雰囲気づくりを心がけている。出された意見は、代表者と管理者間で検討し、運営面に反映するなどして働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている状況や変化を知り、職員が安心して働ける環境を作っている。研修などにも積極的に参加でき、向上心をもてる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内・外での研修の機会を設けている。資格取得についても、働きながら勉強できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの相互研修を行う事によって、親睦を深めるとともに、良いところを吸収しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や、思いを理解し、寄り添ったケアを心がけ、一日でも早く、信頼関係を築き安心して過ごしていただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が体験してきた苦勞を理解し、困っていることはないか、また、ニーズは何なのかを、十分に傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、可能であれば、馴染みの関係が出来るように、本人に会いに行き短時間でも話をして過ごすようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員全員がもち、接するように心がけている。「共に過ごし、学び、支え合う」関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、利用者の状況を必ずお話ししている。遠い家族の方にも、毎月便りにて本人の様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やお墓参りに出かけている。知人や家族の面会が少ない方には、電話や手紙等の支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりがこれまで培ってきた人間関係や社会関係の把握に努めている。利用者の希望に応じて、行きつけの美容院や商店への外出を支援したり、自宅に帰る利用者に同行したりしている。毎月、担当者が利用者の生活状況を記した手紙を届けており、家族との繋がりを継続するための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、楽しく生活が送れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族の方が来られることもあり、現在の状況等を知らせてくれたり、手紙でのやり取りも行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での表情の変化や、言動からも思いや願いを把握するように努め、職員間で情報の共有をしている。	センター方式アセスメントを活用し、利用者一人ひとりの詳細な思いや意向の把握に努めている。日ごろの利用者との生活のなかで些細な変化や思いの把握に努めている。利用者や家族、職員間で話し合い、利用者の視点に立った支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や、家族・知人から情報をいただき、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の暮らしのペースに合わせるようにしている。本人の状況を総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で意見や希望を聞き計画に反映している。職員間で意見交換している。必要であれば、ケースカンファレンスを随時実施する。	本人や家族、職員から意見や情報を収集し検討している。定期的にモニタリングを実施したり、利用者の状態や要望の変化に応じてそのつど計画を見直したりしている。毎月、職員から家族へお便りを送付するなどして、利用者の生活状況を知ってもらうことができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の状況がわかる様に記入している。職員間で情報の共有を図り、ケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じたサービスを提供している。リハビリが必要な方は訪問リハビリを利用。福祉用具レンタルも本人に必要なと思われるサービスを利用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターや民生委員が参加しており、周辺情報や情報交換、協力関係を築けている。町の商店にいき、食材を購入したり、美容院に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診支援、協力医療機関とは24時間の連携体制をとっている。必要に応じて歯科、眼科、精神科の受診支援を行っている。	利用者一人ひとりの希望に応じたかかりつけ医の受診を支援している。職員の介助による専門科の受診も支援している。協力医療機関と連携し、定期的な訪問診療による体調の維持・管理に努めたり、緊急時に対応することのできる体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化の早期発見に努め、担当医に相談し適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族と連絡を密にし、心身状況など情報交換をしながら、退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期のあり方について、本人・家族とも話し合い、苑で対応できる最大のケアについて説明し、担当医との協力体制も踏まえて、安心できるような支援に取り組んでいる。	入居時の段階で、重度化や終末期のあり方について説明を行っている。段階に応じて、利用者や家族の意向を把握し、繰り返し関係者間で話しあって対応方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、職員間で周知徹底している。普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。春の訓練では、地域の方々にも参加していただいております。協力体制を築いている。	年2回、地域の消防団や婦人防火クラブの協力を得て防災訓練を実施している。消防署員の指導のもと、利用者とともに消火訓練やハザードマップの検討等を行うなどして実践的な取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した声掛け、対応が出来るか職員間で確認し合っている。勉強会を行っている。	職員は、利用者の人格や誇りを大切に捉えた支援に努めている。人権の尊重やプライバシー保護に関する研修や勉強会を行っている。職員は、チェックシートを用いて日ごろのケアを振り返り、つねに利用者の立場に立った対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細かな事柄や、表情の変化を見逃さないように努めている。表現が難しい方には、選択して頂く様なアプローチで反応をみて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ベースとした一日の流れはあるが、無理強いはせずにその方のペースに合わせて、意向に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、化粧をする方もいるが、行事として化粧をする機会を設けている。毎日の着替えでは、好きな服を自由に着られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に買い物に行き、準備から片付けまで行う。行事食を企画したり、季節を感じられる食材やメニューを心がけている。	利用者と職員は、ともに買い物へ出かけて食材を選んでいる。また、地域の方からいただいた季節の野菜等を食材として用いて、事業所内で調理している。利用者と職員で配膳を行っている。事業所では、食事を1日の大切な活動のひとつと捉えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日、毎食記録し、不足しないように管理している。食べやすいようにその方に合った、食器や机を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄、イソジン・緑茶等を使用してのうがいを行っている。出来ない方は、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できるだけトイレで自立した排泄を支援している。	利用者一人ひとりの活動記録から排泄パターンを把握するよう努めている。職員は、利用者一人ひとりの自尊心に配慮した介助を心がけている。日中、トイレでの排泄を促し、利用者の生きる意欲や身体機能の向上に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に注意している。日常の運動機会の確保。必要であれば、医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調、希望に合わせて入浴して頂いている。入浴は午後からの時間となっている。菖蒲湯や、柚子湯で楽しんで入ってもらっている。できるだけ、同姓介護を実施している。	利用者の習慣や希望を大切に支援している。職員は、利用者の羞恥心や負担感等を理解するよう心がけている。一人ひとりの状態に応じて、くつろいだ気分で入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息して頂いている。歌や、ラジオを聴きながら眠られる週間がある方には、他の利用者の睡眠の妨げにならない程度でお願いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の説明と、薬局からの説明書をファイルにとじており、全員が把握できるようにしている。また、新たに処方された薬や変更になった薬は全員に周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や、洗濯、食器洗い、花のお世話等、日々の生活にやりがいを感じていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者や家族の要望に沿って、家族行事に参加していただいたり、天気の良い時は散歩に出かけたり、買い物に行ったりしている。季節に応じた外出行事を企画し実施している。	家族の協力を得たうえで、お墓参りや思い出の場所等へ出かけている。日ごろから、利用者と職員で周辺を散歩したり、買い物へ出かけている。また、季節に応じて、利用者の希望の場所やお花見、初詣等へ出かけており、一人ひとりにとって楽しみとなるような外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族と相談し、個人ごとに金銭を預かり、外出時に、使用していただいたり、必要品を購入したりしている。用途の内容は家族に報告し合意の上取り扱っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の同意を得て、一緒に手紙や電話の内容を確認したり、希望があれば、手紙や電話の使用を支援している。判断が難しい方は、家族に相談している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の掲示物を飾ったり、季節の花や鉢植え等を置いている。太陽の光をたくさん取りこんで明るい共有空間を作っている。	事業所は、木材をふんだんに用いた造りとなっており、ぬくもりを感じることができる。共用空間では、利用者が生けた季節の花や雑飾りを展示しており、利用者が集う居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ってくつろがれたり、窓辺で日向ぼっこをされるかたもいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具、物を使用して頂いている。また、写真等を飾って過ごしていただいている。	居室は、畳とフローリングがあり、利用者の身体状況や好みによって選択することができる。自室で編み物を楽しむ方やテレビを持ちこんでいる方もおり、その人らしく自由な時間を過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。トイレや浴室などの共有部分や、自室がわかりやすいように、利用者の目の高さに合わせて装飾している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、理念を読み上げるようにしている。また、苑内の目のつく場所に掲げ、常に意識し、職員全員が同じ方向に向かい、ケアに携わる様になっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	花乃苑夏・秋祭りや、避難訓練の際に地域の方々の参加がある。また、地元の小学校児童、幼稚園児が来苑され、表現会等、交流出来ている。野菜の差し入れをしていただくこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して下さる民生委員や役場の方々にケアの拠点として出来ることはないか、役立つことはないかと伝えている。また、実習生の受け入れも実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実際、取り組み状況等の報告を行っている。会議で出た意見をまとめたものを回覧し、必要であれば、職員間で会議を行い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の担当者とは運営推進会議や相談がある時、認定更新時に深くかかわっている。また、問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、勉強する場を作っている。また、常に「身体拘束をしないケアの実践」に心がけ、職員で考え、取り組んでいる。玄関の施錠はせず、さりげなく、会話し、一緒について行くなどして、自由な暮らしを支えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、勉強する場を作っている。事業所内で虐待が見過ごされる事のないように注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している方がいらっしゃるため、機会あるごとに職員への説明を行い、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、家族の不安や疑問点を十分理解、納得されるように時間をとり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見を言えるような環境作り心がけている。運営推進会議においても、利用者家族に意見を頂き、反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、積極的に意見、提案出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている状況や変化を知り、職員が安心して働ける環境を作っている。研修などにも積極的に参加でき、向上心をもてる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内・外での研修の機会を設けている。資格取得についても、働きながら勉強できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの相互研修を行う事によって、親睦を深めるとともに、良いところを吸収しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や、思いを理解し、寄り添ったケアを心がけ、一日でも早く、信頼関係を築き安心して過ごしていただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が体験してきた苦勞を理解し、困っていることはないか、また、ニーズは何なのかを、十分に傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、可能であれば、馴染みの関係が出来るように、本人に会いに行き短時間でも話をして過ごすようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員全員がもち、接するように心がけている。「共に過ごし、学び、支え合う」関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、利用者の状況を必ずお話している。遠い家族の方にも、毎月便りにて本人の様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やお墓参りに出かけている。知人や家族の面会が少ない方には、電話や手紙等の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、楽しく生活が送れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族の方が来られることもあり、現在の状況等を知らせてくれたり、手紙でのやり取りも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での表情の変化や、言動からも思いや願いを把握するように努め、職員間で情報の共有をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や、家族・知人から情報をいただき、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の暮らしのペースに合わせるようにしている。本人の状況を総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で意見や希望を聞き計画に反映している。職員間で意見交換している。必要であれば、ケースカンファレンスを随時実施する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の状況がわかる様に記入している。職員間で情報の共有を図り、ケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じたサービスを提供している。リハビリが必要な方は訪問リハビリを利用。福祉用具レンタルも本人に必要と思われるサービスを利用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターや民生委員が参加しており、周辺情報や情報交換、協力関係を築けている。町の商店にいき、食材を購入したり、美容院に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診支援、協力医療機関とは24時間の連携体制をとっている。必要に応じて歯科、眼科、精神科の受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化の早期発見に努め、担当医に相談し適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族と連絡を密にし、心身状況など情報交換をしながら、退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期のあり方について、本人・家族とも話し合い、苑で対応できる最大のケアについて説明し、担当医との協力体制も踏まえて、安心できるような支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、職員間で周知徹底している。普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。春の訓練では、地域の方々にも参加していただいております。協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した声掛け、対応が出来るか職員間で確認し合っている。勉強会を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細かな事柄や、表情の変化を見逃さないように努めている。表現が難しい方には、選択して頂く様なアプローチで反応をみて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ベースとした一日の流れはあるが、無理強いはせずその方のペースに合わせて、意向に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、化粧をする方もいるが、行事として化粧をする機会を設けている。毎日の着替えでは、好きな服を自由に着られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に買い物に行き、準備から片付けまで行う。行事食を企画したり、季節を感じられる食材やメニューを心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日、毎食記録し、不足しないように管理している。食べやすいようにその方に合った、食器や机を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄、イソジン・緑茶等を使用してのうがいを行っている。出来ない方は、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できるだけトイレで自立した排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に注意している。日常の運動機会の確保。必要であれば、医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調、希望に合わせて入浴して頂いている。入浴は午後からの時間となっている。菖蒲湯や、柚子湯で楽しんで入ってもらっている。できるだけ、同姓介護を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息して頂いている。歌や、ラジオを聴きながら眠られる週間がある方には、他の利用者の睡眠の妨げにならない程度でお願いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の説明と、薬局からの説明書をファイルにとじており、全員が把握するようにしている。また、新たに処方された薬や変更になった薬は全員に周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や、洗濯、食器洗い、花のお世話等、日々の生活にやりがいを感じていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者や家族の要望に沿って、家族行事に参加していただいたり、天気の良い時は散歩に出かけたり、買い物に行ったりしている。季節に応じた外出行事を企画し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族と相談し、個人ごとに金銭を預かり、外出時に、使用していただいたり、必要品を購入したりしている。使途の内容は家族に報告し合意の上取り扱っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の同意を得て、一緒に手紙や電話の内容を確認したり、希望があれば、手紙や電話の使用を支援している。判断が難しい方は、家族に相談している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の掲示物を飾ったり、季節の花や鉢植え等を置いている。太陽の光をたくさん取りこんで明るい共有空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ってくつろがれたり、窓辺で日向ぼっこをされるかたもいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具、物を使用して頂いている。また、写真等を飾って過ごしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。トイレや浴室などの共有部分や、自室がわかりやすいように、利用者の目の高さに合わせて装飾している。		